

編集後記

◇50人の力の結晶として

50周年記念誌の編集作業を通して、新しい発見がたくさんあった。オーストリアの戦後復興から、ベルリンの壁崩壊と東欧の民主化、欧州連合（EU）加盟、欧州単一通貨「ユーロ」導入、シェンゲン協定加盟国拡大による事実上の「国境」廃止……。日本人会50年の歩みを振り返ることは、オーストリアの戦後の歴史をたどることもあった。この編集作業の過程で、著名な音楽家や歴史に詳しい方、さまざまな立場の方々に親しくお話を聞かせてもらった。そして、ウィーンとオーストリアの奥深さとその魅力に接することができた。

50年前、留学中にこの地で急逝された岩田聖子さんの墓前に花を手向けた。そうして、日本人会の原点は、「助け合いの場をつくろう」との願いだったことを確認した。多くの方から原稿や写真を寄せていただき、WEB版の形でこの記念誌の完成にこぎつけることができた。寄稿やインタビューで記念誌づくりに協力してもらった方は約40人。さらに編集チームに加わった仲間を入れると、50人を超える人々の力の集大成だと思っている。さまざまな形で参加していただいた方々に深く感謝の念を伝えたい。2009年は、日本オーストリア交流年。きっとまた新たな交流が生まれ、新しい時代を彩る物語が歴史に刻まれていくことだろう。 【中尾卓司】

◇ウィーンを感じた瞬間

ウィーンに駐在してわずか2年足らずの私が50周年記念誌の3名の原稿集めと年表作りの編集にかかわった。日本人会事務所から運んだ山のような資料からの年表作成は夫が出張中の夜長に食卓に広げての作業である。外では帰路につく馬車の音。家の中では資料の段ボールで遊んでいた愛猫が箱の中で眠ってしまっている。昼間、年表チームがピックアップした事柄を整理しながら、それぞれわずか1行ずつの項目に当時のドラマを思い浮かべた。このひとときは、この2年間で一番ウィーンを感じた瞬間だった。 【浦元三起子】

◇グローバル化と新しい意義

このような記念すべき50周年記念誌の編集作業に携わる機会が与えられましたことに心から感謝致します。一番未熟な私を編集委員の皆様は温かく迎え入れてくださり、本当に嬉しく思いました。これから益々グローバル化が平常化し、海外に生活する日本人のみならず、日系人といわれる人々の数も増えていくでしょう。日本人会にも新たな意義が生まれてくるものと思います。これからの会の御活躍を心から期待致します。 【川崎さやか】

オーストリア日本人会の50年

オーストリア日本人会設立50周年記念誌

「オーストリア日本人会の50年」



発行：オーストリア日本人会（富士原寛会長）

発行年月日：2008年12月1日

表紙絵・題字：二宮睦生（ウィーン日本人学校）

イラスト提供：杉本純

<編集チーム>

中尾卓司（編集長）

一林類 内田早苗 浦元三起子

大島法子 川崎さやか 桜庭薫

佐藤一樹 富士原伴子 山形浩史